

提携米通信

2019年11月号・黒瀬農舎

豪雨災害など招く地球温暖化は困ったことです。



ブナ植え準備 11月3日のブナ植えに先立ち、この数年間に植えたブナの苗木の管理と、植栽地の地こしらえに山に行きました。7月に夏場の下草刈りを行いました。またツル草などがブナをいじめていました。

今年の文化の日の植栽参加者は多そうで、我がロッジ定員オーバーの模様です。前夜祭には熊汁を愉しんで頂こうと準備中です。

2019.10.29撮影

台風、豪雨被害が関東や長野で出ていますが、被害を受けられた方には心よりお見舞い申し上げます。

ところで、台風の風速や集中豪雨の降雨量、その逆の、好天高温、寡雨の記録が次々更新される、最近の異常気象はとても心配です。

稲刈り前に北海道の稲作農家が訪ねて来ましたが「今年は、苗が伸び過ぎ大変苦労した。」と言っていました。確かに北海道の中でも北部に位置する佐呂間で5月26日、最高気温が39.5℃という驚きの記録です。

イネの生理上、田植え頃の気温は

暖かい地方であっても20℃前後が好適なのですから、30℃近くになれば、苗代、田圃の水温はお風呂より熱く39℃ならイネは悲鳴を上げます。

豪雨問題も同じです。私たちの村は排水ポンプを動かす風車が並ぶオランダの農村と同じように、湖の底に拓けた村。田圃も、住宅地も全村が海拔ゼロメートル以下で、降った雨水はすべてポンプで汲み出す地帯です。

ここが完成してからすでに半世紀を超えましたが、大雨になると、時々「大潟村を除く秋田県全市町村に洪水警報」と発表されるように秋田県の各地で洪水が出て、当地では水害はありません。海拔ゼロメートルに耐える完璧なまでのインフラが出来ているのです。

ところが、当地の排水基本設計雨量は、30年確率の72時間で160ミリなのです。当地の今までの72時間最高降雨量の記録は187ミリでしたが、その時も大丈夫でした。

しかし年間降雨量が900ミリ代と全国一少ない長野県で、今回は、一部地域で72時間で400ミリ、また箱根では24時間に1000ミリ近くも降ったのですから、このような大雨が来れば、当地もお手上げだと思われます。

異常気象は人間が作った災いです、農業問題と共に、水や自然環境問題の関心の高まりを期待しながら、数日前から文化の日のブナ植えの来訪者の受入れ準備をしているところです。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

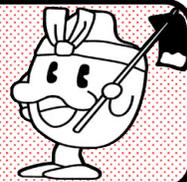
TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887

E-mail: akita@kurose.com

Web:

提携米 黒瀬農舎

検索



★定期購入の場合も、変更や前倒しの出荷、休止はいつでも対応いたします。
変更や休止は次のお米のお届けの5日ほど前までにご連絡下さい。
★お米のご贈答利用も宜しくお願いたします。

★電話は土日祝日も含めて朝8時～夜8時頃まで対応致します（自宅兼事務所）。但し、電話受付の専任スタッフはいないため作業中や外出などで留守番電話での対応となることがあります。ご了承をお願いします。

また、メールもぜひご利用下さい。なおメールは原則すべて返信していますので、返信メールが届かない際は自動的に迷惑メールとなっている可能性もあるので迷惑メールの確認やメールの設定をご確認下さい。

のんびり気分で取り組みば、草に負け経営破たんの有機のお米作り。

今年の稲刈りは9月20日過ぎから10月中頃まででした。高温好天が続いたので、例年より1週間から10日ほど早くスタートでき、また、稲刈り中も好天に恵まれ、こんなに順調に作業が出来たことは久しぶりでした。

右上は、イネが順調に生育した部分です。コンバインを運転していても、お米が続々タンクに入る音など手応えはたまりません。



一方で、下は、生育期間中に広葉の雑草が繁茂し、その広葉雑草は夏の乾燥でなくなり、稲だけがまばらに残っているだけの場所です。このような場所は、半作どころか、9割の減収です。

また、写真にはありませんが、雑草の中でもヒエが繁茂した場所は、ヒエによって収穫直前にイネが倒され、イネはヒエの下で腐って収穫皆無。コンバインで踏み倒してしまった部分も今年が多いでした。

このようなアクシデントがあった場所は全体の20～30%ですが、原因は色々あります。

水が深すぎて広葉雑草が繁茂、浅すぎてヒエが繁茂した場所。マガモ君がどうしてか判りませんが、ほとんど回遊しなかった場所。代かき時の水加減が少なすぎて、土がドロドロに練れなく、除草機を掛けても、発芽直後の雑草に泥がかぶらず、雑草の生育を許してしまった場所などです。

このような場所は、昔はパートの女性に手で取って貰っていたのですが、一畝幅を手取りするに1日に30メートル処理するのが精一杯。近年では、全部を取りきるだけの人手がなく、放棄する部分が多くなりました。

無農薬のお米作りは、まさに「雑草との闘い」。「のんびり」した農作業風景は、作業を眺める方の感覚。働いている当人は、腰を曲げ、汗びっしょりで悪戦苦闘です。お米の栽培中は常に、手も目も抜かず、緻密な観察、そして、機敏に行動しないと敗北・経営破たんするのが無農薬稲作の運命です。でもご心配なく、皆さんのご支援のお陰で、この綱渡りの醍醐味も結構楽しいのです。



今年は春先から色々の柑橘類、その後、葡萄、桃、ナシなど果物を頂いたり、取り寄せたりしましたが、ごく一部を除き、ほとんどの果物の味は「いまいち」でした。

我が家の庭の家庭菜園のどの野菜の育ちも、好天続きだというのに生育は、これも「いまいち」です。トウモロコシもスイートコーンとは呼べない代物で、甘味も少なく、粒の歯ごたえも悪いです。



やはり何かおかしいのです。温暖化による異常気象が原因となっていると思われまます。

雨が多すぎると逆に分水不足。日照不足。また逆に好天高温だが夜温が下がらず糖度が出ないetc.

10月末、例年の三上さんのグリーンムツを引き取りに津軽に行きました。三上さんは数年前にご主人が他界され、貴重な無農薬リンゴの量は年々縮小し、今年は40箱です。

でもリンゴの味は、今年の他の果物に比べると、珍しく例年並みを確保できているとのこと。

晩生のフジは果たしてどうか。期待するのみです。

お餅・リンゴ・手作り味噌などご注文ありがとうございました。

お餅などは：お指定のない限り、11月下旬から年末までのお米と一緒にお届けします。

リンゴのフジは：11月下旬～12月上旬（ご指定頂いている方は、その時期）のお届けとなります。

糀、大豆など手作り味噌関係は：1月下旬以降のお届けとなります。

（進物先と自宅のお届け時期を変えるなどのご用命は、何なりと電話やメールでご連絡下さい。）